

平成29年度第1回市川市幼児教育振興審議会会議録（詳細）

1. 日 時 平成29年7月25日（火）午前10時00分～11時30分

2. 場 所 市川市教育委員会 会議室

3. 出席者

委 員：会長 高尾公矢、副会長 駒久美子、吉田英生、緑谷一樹、松尾裕美、
榊田美恵子、内山利恵子、土木田邦男、松丸奈津子、高野佳子、竹内陽子、
末廣治彦

市川市：松下教育次長 佐野生涯学習部長、伊藤生涯学習部次長、根本教育政策課長、
井上学校教育部次長、吉野指導課長、六郷就学支援課長、市來こども政策部次長、
岡崎子育て支援課長 ほか

4. 議 題

(1) 会長及び副会長の選出

(2) 公立幼稚園について（報告）

(3) 「市川版アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム」のリーフレット作成に
ついて（報告）

5. 配布資料

- ・次第
- ・資料1 市川市幼児教育振興審議会委員名簿
- ・資料2 市川市幼児教育振興審議会条例
- ・資料3 市川市幼児教育振興審議会の概要
- ・資料4 公立幼稚園を取り巻く状況
- ・資料5 公立幼稚園に関する今後のあり方（基本的方針）（平成29年2月）
- ・資料6 「市川版アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム」について
- ・資料7 浦安市幼・保・小連携 アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム

○教育政策課長

現在、当審議会の会長が決まっておりませんので、会長が決まるまで、私が進行を務めさせていただきます。

それでは、只今より、平成 29 年度第 1 回市川市幼児教育振興審議会を開会いたします。本日は、審議会委員 13 名中 12 名が出席されており、市川市幼児教育振興審議会条例第 6 条第 2 項の規定により、委員の半数以上が出席しておりますので、本会議は成立いたしました。

また、市川市審議会等の会議の公開に関する指針第 7 条に基づき、議題に係る会議を公開するかどうかを決定いたしますが、本日の議題は法令等で非公開とはされておらず、また、個人情報などの非公開情報も含まれておりませんことから、同指針第 6 条に規定する非公開事由はございませんので、会議を公開することとしてよろしいかお諮りいたします。いかがでしょうか。

《委員一同 異議なし》

○教育政策課長

ご異議なしですので、本議題に係る会議を公開することと決しましたので、傍聴者がいましたら入場をお願いします。

《傍聴者なし》

【議題 1 会長及び副会長の選出】

○教育政策課長

それでは、お手元の次第に沿って進めさせていただきます。

「議題 1 会長及び副会長の選出」です。

会長及び副会長は、市川市幼児教育振興審議会条例第 5 条第 1 項において、委員の中から互選すると規定されております。委員の皆さんより立候補もしくは推薦がございましたらお願いいたします。

○末廣委員

推薦があります。聖徳大学の教授であります高尾委員にお願いしたいと思います。

○教育政策課長

高尾委員というお名前挙がりましたが、皆さんいかがでしょうか。

《委員一同 異議なし》

○教育政策課長

それでは、高尾委員、会長をお引き受けいただけますでしょうか。

《高尾委員 了承》

○教育政策課長

ありがとうございます。それでは、会長となられました高尾委員には、お席を移動していただきたいと思います。高尾会長より一言ご挨拶をお願いし、これ以降は、高尾会長に進行をお願いいたします。ご協力ありがとうございました。

《高尾会長 会長席へ移動、ご挨拶》

○高尾会長

会議を続けます。次に、副会長を選出いただきます。副会長につきましても、委員の皆さんより立候補もしくは推薦がございましたらお願いします。いかがでしょうか。

それでは、皆さんのご承諾をいただければ、私のほうから、今まで副会長をしていただいておりました駒委員を推薦したいと思いますが、皆さん、いかがでしょうか。

《委員一同 異議なし》

○高尾会長

それでは、駒委員、お引き受けいただけますでしょうか。

《駒委員 了承》

○高尾会長

ありがとうございます。それでは、お席の移動をお願いします。

《駒委員 副会長席へ移動》

○高尾会長

駒副会長より一言ご挨拶をお願いいたします。

《駒副会長 ご挨拶》

【議題2 公立幼稚園について（報告）】

○高尾会長

ありがとうございました。皆様、これからよろしく願いいたします。

それでは次の議題に移ります。「議題2 公立幼稚園について」、こちらは報告ということで、事務局から説明をお願いします。

○教育政策課長

それでは、事務局から議題2の報告をさせていただく前に、委員改選後、最初の審議会となりますので、まず、本審議会の概要を説明させていただければと思います。資料3をご覧ください

さい。市川市幼児教育振興審議会は、本市の幼児教育の振興と充実を図るための方策について調査審議する目的で、昭和50年4月1日に設置されました。非常勤の委員13名で構成されております。

また、資料には直近3年間の審議状況を記載しております。本審議会では、これまで、公立幼稚園のあり方や保育料に関することを主に審議していただいております。

それでは、「議題2(1)公立幼稚園を取り巻く現状について」、報告させていただきます。「資料4 公立幼稚園を取り巻く状況」をご覧ください。資料左側、上段の「1 市川市における3歳児～5歳児の児童数と就園状況」は、縦棒が3歳児から5歳児全体の児童数を示しており、折れ線グラフの四角は幼稚園等に通っている園児数の割合、三角は保育園等に通っている園児数の割合をそれぞれ示しております。児童数は減少傾向でございまして、平成29年度と平成19年度の児童数を比較しますと、約1,300人、1割程度減少しております。同様に、現在と10年前を比較しますと、幼稚園等に通っているお子さんの割合は約12ポイント減少しておりますが、保育園等は約14ポイント増加しております。

次に、「2 公立幼稚園の施設・園児数一覧」をご覧ください。こちらは、平成29年度の公立幼稚園の築年数と園児数の状況でございまして。現在、公立幼稚園は7園ございまして、二俣幼稚園は平成28年度から休園中となっております。公立幼稚園では、4歳児と5歳児を受け入れてございまして、今年5月1日現在の園児数は、合計で745人でございまして。

続きまして、右側の「3 市内幼稚園設置図」をご覧ください。市内には、私立幼稚園が32園、公立幼稚園は7園ございまして。公立幼稚園は昭和40年代から50年代に幼児人口が急増した際、私立幼稚園に入園できない児童のために私立幼稚園の補完的な役割を担うために設置されたという経緯がございましてことから、設置場所に偏りがある状況となっております。

次に、議題2の「(2)公立幼稚園に関する今後のあり方(基本的方針)について」、ご報告いたします。「資料5 公立幼稚園に関する今後のあり方」をご覧ください。公立幼稚園のあり方につきましては、平成22年度に審議会にお諮りし、答申を踏まえ、教育委員会が基本的方針を定めました。この基本的方針には、資料の一つ目の丸印の部分となりますが、当面、北部・中部・南部の3園を基幹園として残し、「公」の役割を果たすことを掲げております。基幹園は、北部に位置する百合台幼稚園、中部に位置する大洲幼稚園、南部に位置する南行徳幼稚園とし、公の役割としては、①特別支援教育(特別支援学級)、②教育機会の確保、③幼児教育の研究、④子育て支援施策(相談)がございまして。

また、二つ目の丸印の部分となりますが、その他の園については、廃園可能となった園から順次、廃園を検討していくということも掲げております。

基本的方針の策定後、全国的には、急速な少子化の進行、核家族化の進展や地域のつながりの希薄化、共働き家庭の増加など、家庭や地域を取り巻く環境の変化に対応するため、幼児期の学校教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進することを目指し、平成24年8月に、子ども・子育て関連3法が制定され、平成27年4月から子ども・子育て支援新制度が開始されました。

そして、新制度のもとでは、幼児教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることから、全ての子どもが健やかに成長するよう、より一層の質の高い幼児教育の提供が求められているところです。

また、公立幼稚園においては、園児数減少により幼児教育の効果に支障が生じる恐れがある

ことから、適正規模に関する考え方を示す必要が生じておりました。

これらのことを踏まえ、昨年度、基本的方針の一部見直しについて、審議会にお諮りし、答申をいただきましたことから、それを踏まえまして、教育委員会で一部見直しを行いました。見直しのポイントは2点ございまして、いずれも、答申に沿った内容となっております。1点目は、幼児教育の質の向上の取り組みを強化するため、「公」の役割に、⑤として、人材育成機能の役割を位置づけました。2点目は、幼児期の教育にふさわしい環境を維持するため、公立幼稚園の適正規模を定めました。こちらは、3つ目の丸印の部分になります。報告は以上でございます。

○高尾会長

事務局から公立幼稚園についての報告がありました。只今の報告について、質問や意見があればお願いしたいと思います。

吉田委員、どうぞ。

○吉田委員

昨年まで僕は信篤幼稚園の園医をやっていたんですけど、今年交代したんですけども、信篤幼稚園は今年的人数が減っているようです。このままでいくと信篤幼稚園は休園とかが見えてくると思うのですが、人数が減っている理由は分かっているのでしょうか。二俣幼稚園のほうの理由は防衛省の宿舎の問題がありますので良く分かるのですが、信篤小学校はすごく人数がいるんですね。その最寄の幼稚園ですので、この人数の減り方というのは、私立に流れているのか、その他の理由があるのか、その辺がもし分かれば教えていただきたいです。

○教育政策課長

確かに数字としては減少しておりますが、それがどこに流れているのかということにつきましては、今の段階では分析が終わっておりません。保育園に流れているのか、私立幼稚園に流れているのかについては、今のところはお答えできない状況です。

○高尾会長

他にご意見がありましたらお願いします。緑谷委員、いかがでしょうか。

○緑谷委員

資料4で、幼稚園就園児数は減り続けているように見えますが、平成28年度から29年度の調査によると、私立幼稚園協会加盟園に関しては、就園児数は増加しております。これは、単純に人口が増えて流入が増えた為と分析をしております。この資料では、公立私立が混ざっているので、恐らく、公立が大分減った為、全体としては減少傾向というグラフになったのかと思います。公定価格の関係で公私の保育料格差がなくなったり、3歳児保育がない、もしくは、長時間保育がないということ、また、そもそも全国的な保育所志向の高まりということで、幼稚園全体がニーズに合致していないということが理由の一つではないかと考えております。私から伺いたいのは、公立幼稚園の人数が大分減っていますが、教員の数は去年と今年ではどのくらい差があるのでしょうか。子どもが減れば教員も減るのが私立では当然で、人件費の間

題もあります。そちらについてもお伺いしたいと思います。

他に、人数減に対して手を打つということも施設としては必要だと思います。それも原因究明が終わっていない中ではないとも思いますが、機能変更ですね、低年齢化や預かり保育というのはできないとは思いますが、そういう予定はおありかということをお聞きしているので、教えていただければと思います。よろしくお願いします。

○高尾会長

事務局から2点についてお願いします。

○教育政策課長

施設につきましては、各園、それなりの年数が経っておりますけれども、市全体として、公共施設についてのどのような計画を立てるか見直しを行っているところです。

教職員の数は、平成28年度が63名、27クラス、平成29年度は60名、27クラスでございます。

○緑谷委員

臨時の方もいらっしゃると思うのですが。

○教育政策課長

公立の場合は非常勤職員が一定数配置されておまして、そちらも込みの数値となっております。

○高尾会長

よろしいでしょうか。それでは、他にご意見がありましたらお願いします。

○緑谷委員

昨年も基幹3園の役割の話がありまして、資料3ですね、公立では人材育成のほうに力を入れていくという話がありました。その後、実際に、幼稚園協会のほうにも公立の研修会の案内をいただいて感謝をしております。ただ、その際に、教員のワーク・ライフ・バランスですね、研修が増えたことによって、教員の環境が悪化しているということはないのでしょうか。それを私は昨年も心配をしておりましたので、伺えればと思います。

○就学支援課長

研修の件は、昨今、職員のワーク・ライフ・バランスがうたわれているということはこちらでも重々承知をしております。年度当初に研修計画等を伝え、職員が参加しやすい環境づくりをさせていただいております。また、よりたくさんの方に参加していただきたいということで、研修の内容等も精査して実施しております。

○緑谷委員

最近の教員の研修は、どうしても幼児教育機関ですと、昔は水曜日や金曜日が早く終わって

からが多かったのが、最近では、毎日3時頃まで保育をして、さらにその前後で預かり保育もや
ってという変化もあって、研修は土曜日の午前中にしましょうとか、だんだん変わってきてい
ます。もともと土曜日が休みだったところに、半強制的に出勤が割り振られるということは、
教育機関のどこも同じ問題ではないかと思います。公立の研修の場合は年次計画を立てて事前
に配布をしているということですが、主にどの曜日のどの時間帯にされるのが傾向としては多
いのでしょうか。

○就学支援課長

実際に行われているのは、夏季研修です。夏休み期間中、お子さんの保育がない期間に実施
しております。あとは、水曜日の午後です。公立幼稚園は水曜日は午前保育ですので、そうい
った時間を主に利用させていただいております。

○高尾会長

緑谷委員、よろしいでしょうか。他にご意見がありましたらお願いしたいと思います。榊田
委員、公立幼稚園の今後のあり方も含めて現状も踏まえて、どのように考えておられますか。

○榊田委員

現状、園児数がかなり減少しておりますので、公立幼稚園として少しでも質の高い保育をし
て、市川市の子どもたちのためにと考えております。大きく減った理由は、2年保育というこ
とと、数年前まで保育料が一定だったものが所得に応じたものになったこと、公立幼稚園では
預かりはしておりませんので、その辺だと考えております。

○高尾会長

公立幼稚園児の保護者の内山さんはいかがですか。実際に公立幼稚園にお子さんを通わされ
ていて、どのように考えておられますか。

○内山委員

稲荷木幼稚園もなくなりましたし、公立幼稚園は人数的には減っていますが、金額が多少変
わってきたとはいえ、公立幼稚園に通わせたいという保護者もけっこういらっしゃいます。
稲荷木ですとか、離れたところからも大洲幼稚園に通われている方もいらっしゃいます。もち
ろん、お仕事はされていないですが、その分、2年間はお子さんとの時間を十分にとり、公立
幼稚園でゆっくり育てていきたいという保護者の方が大洲幼稚園には多いという実感です。

○高尾会長

今後、公立幼稚園のあり方も含めて、議論をしていきたいと思いますが、いろんな考えを出
していただければと思います。他にご意見があればお願いしたいと思います。末廣委員、ご意見があればお願いしたいと思います。

○末廣委員

小学校では、1年生に入ってくる際に、幼稚園や保育園等において、中には幼稚園でも保育

園でもないという方も若干いらっしゃいますが、子ども同士で子どもながらの社会生活を積極的に行っている園に関しては、小学校に入って新しい環境や友だちに馴染みやすい子どもの割合が高いと、見ていて感じるところです。その割合が全体的に進んでいけば、もっとより早く小学校に慣れて、小学校生活がスムーズにスタートしていくと思います。また、公立・私立の差はあるかと思いますが、それぞれ良さがありますので、子どもも保護者も選べるというのは必要ではないかと思います。

○高尾会長

保育園の側から、土木田委員、いかがですか。

○土木田委員

公立園に関しては就園児童数が減っているということですが、資料5にあるように、基幹園3園を残してあとはおいおい廃園をしていく方向でお考えのようには見えますが、就園児童数の制限とか何か行っているのでしょうか。

○教育政策課長

各幼稚園に定員はありますが、その他の制限は行っておりません。

○土木田委員

そうしますと、所得に応じた保育料のアップ、預かり保育がない、そういった部分で市民に人気がないと言いますか、そういう受け取り方になってしまうのでしょうか。

○高尾会長

事務局いかがですか。

○教育政策課長

先程もどういった理由で信篤幼稚園の園児数が減少しているのかという話もありましたが、資料4の1のグラフのとおり、保育園の需要のほうが上がってきているという印象は否めないと思います。それぞれの家庭のライフスタイルの変化、そういったところであろうかと思えます。

○土木田委員

市川市の幼稚園の公私立の配置図を見ますと、南行徳幼稚園や塩焼幼稚園は廃園に持っている状況にはないようには見えます。資料を読むと、廃園可能となった園から順次廃園とあるので、廃園に持っていくようなお考えであるのかと勘繰りをしてしまったのですが、別に何もなければ、廃園を前提に物事を考えるのではなくて、より充実を図ったほうが良いのではないかと思っただけですので、話をさせていただきました。

○教育政策課長

廃園前提で、例えば入園制限をかけるとかそういうことはしておりません。今後の状況を見

定めた上で、子どもが減った場合は廃園もあり得るということですので、ご理解をよろしくお願いたします。

○高尾会長

他によろしいでしょうか。保護者の立場からいかがですか。松丸さんはいかがですか。

○松丸委員

資料5で、幼児期の教育にふさわしい環境を維持するためにこの部分の一つ目に、同学年の学級は2学級あることが望ましいと書いてあります。これは、公立幼稚園だけではなくて、今、上の子を保育園に入れていますが、保育園ではそういう答えはないわけじゃないですか。そうすると、小学校に上がる時に、小規模の保育園から行った子は少し差が出るのかなという心配があります。

○教育政策課長

申し訳ございません。保育園の内容についての審議はこれまでしてこなかったものですから、あくまでも幼稚園の教育にふさわしいのはこのぐらいの規模ということでの表記となっております。

○高尾会長

基本的には、幼稚園は教育という前提があるので、2学級くらいはあったほうが望ましいだろうという考え方なのです。保育所の場合は生活支援ということが前提にあります。保育所だと1学級だから小学校に入った時に上手くいかないのではないかというお考えですね。

○松丸委員

親が働いていれば保育園に通わせて、母親が専業主婦であれば幼稚園に通わせると思うのですが、同じ3歳児、4歳児、5歳児ですけれど、片方は教育、保育園は家庭支援が主で目的が違うというのがちょっと。

○高尾会長

ちょっと理解できない。

○松丸委員

はい。

○高尾会長

その辺も含めて議論していきたいと思います。

○駒副会長

3歳、4歳、5歳は、幼稚園であっても保育園であっても、目指すところは同じですので、そこは、幼稚園教育要領にも保育所保育指針にも同じようにねらいがあり内容があり、目指して

いますので、そこはご心配なさらなくても大丈夫かと思えます。園児数に関して、2 学級ということ、協同性とか協調性といったことを学ぶためにはある程度の人数が必要ということだと思います。保育所であってもそれができないということではなくて、同学年のクラスがなくとも、それが異年齢というつながりで考えることもできると思いますので、保育園には保育園なりの良い教育のあり方、保育のあり方があると思いますから、その辺りを考えていただければと思います。

○高尾会長

それでは、保育園の園長の立場からいかがですか。

○高野委員

人数が少なくても、それはそれで良い面もあります。保育内容、教育内容にも生かされることがありますので、人数がだんだん減っていくことの心配はあるかと思いますが、保育園や近隣の公立・私立との交流など様々な形で幼児教育が行われ、就学に向かっていくのではないかと思います。このような議論もされていて、アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムのリーフレット作りもありますので、これが、今後、市川市全体の子どもへの取り組みにつながっていくといいなと感じています。

○高尾委員

それでは、竹内委員、いかがですか。

○竹内委員

保育園が増えているのは働くお母さんが増えているからだと思うので、年々増えているのは納得しています。保育園に限らず、公立を望んでいる保護者もけっこういらっしゃると思いますので、公立幼稚園を廃園にしていき、今後、選択肢として少なくなっていくのはどうかと思います。2 年保育でも魅力的な幼稚園を目指して、働いているお母さんたちにも公立幼稚園を選んでいただけるような幼稚園のシステムを作っていったらいいんじゃないかなと思います。

○高尾会長

松尾委員、私立幼稚園の保護者の立場から、いかがですか。

○松尾委員

私立幼稚園で子どもが6 年間お世話になりました。今、私立幼稚園も保育園並みに、朝の預かり保育や、保育後の預かり保育が充実しているので、幼稚園の中で働くお母さんがどんどん増えている現状が見られます。そこでやはり、公立幼稚園を選択肢として選ばない方が増えているのかなと感じます。

○高尾会長

他にご意見がありましたらどうぞ。

○内山委員

先日、大洲幼稚園で全体保護者会が行われました。そこで、園長先生のほうで、保護者の意見としていくつかお話しいただいた中での話なのですが、公立幼稚園で預かり保育がないと分かって入園させてはいるのですが、もし可能であれば、例えば、月1回の預かり保育、そんなに長い時間でなくてもかまわないので、預かり保育ができれば嬉しい、保護者も多少リフレッシュしたいという気持ちもありますので、そういったところで預かり保育はないのですかという保護者からの意見が多数ありました。園長先生からお話しであったのは、行徳地区のほうでは公立幼稚園で月に1回だけ預かり保育があるということでした。私は細かいことは分かりませんが、そのような話が出たのですが、公立幼稚園のほうで預かり保育というのをやってしまうと、私立幼稚園とのバランスというか役割が変わってきてしまうというようなお話があって、行徳地区ではイレギュラーで月1で預かり保育を受け入れているということなのですが、こちらの公立幼稚園では預かり保育はできないということでした。そういうのは、実際、同じ公立幼稚園の中でも預かり保育ができるできないというのはあるものなのかということをお場で教えていただければと思います。

○高尾会長

事務局、いかがですか。

○教育政策課長

今、こちらでは詳細にお答えできるものはないということです。

○高尾会長

公立幼稚園での預かり保育のあり方ですね。

○内山委員

基本的に、公立幼稚園では預かり保育は認められないという言い方は違うかもしれませんが、本来ないものということが前提の公立幼稚園なのか、それとも、もし、各園での考え方でよければできるのかということですね。もし、公立幼稚園全体で預かり保育はしないという取り決めや役割の分け方があるのであれば、それはそれで納得はするのですが、行徳地区だけは月1回だけはあるということだったので、その辺の違いはどうかかなと思ひまして。

○高尾会長

梶田委員は何か情報がありますか。

○梶田委員

預かりという形では公立幼稚園では実施しておりません。

○高尾会長

また情報が確認できれば次回ということでもよろしいでしょうか。

○内山委員

はい。

○高尾会長

その他の点で、公立幼稚園のあり方についていかがでしょうか。

○緑谷委員

昨年も、特別支援については、いろいろな意味で枠やゆとりのある公立のほうで基幹3園を中心に拡充をしていただけないかをお願いをしているところですが、インクルーシブであったり、その他の問題もあり、検討課題ということで昨年は終わっているかと思います。今年度がスタートして1学期が終わっているかと思いますが、特別支援の拡充というのは進んでおりますでしょうか。

また、私立の幼稚園向けには、特別支援の届出の申請は終わっておりますが、恐らく、例年より申請数が増えているかと思います。そうした点と併せて、私共では、特別支援の拡充というのは幼児教育と切り離せない、急いで対応するべきテーマと考えておりますので、ぜひ、現状でのお考えをお聞かせいただければと思います。よろしく願いいたします。

○高尾会長

事務局からお願いします。

○就学支援課長

公立幼稚園の特別支援についてお答えします。公立幼稚園では、ひまわり学級と言われる学級を、南行徳、百合台、大洲幼稚園に設けております。そちらで特別支援教育を実施しております。その他に、残りの園では、ひまわり学級は持っていませんが、通常学級の中にいわゆる気になるお子さんたちも入園しております。

○高尾会長

緑谷委員、よろしいですか。

○緑谷委員

それは今年からの方針ではなく、恐らくここ数年の方針だと思います。昨年と今年で何か変わった点があれば教えていただきたいのですが。

○就学支援課長

昨年度と変わったところは特にございません。

○緑谷委員

今年も北部地区及び総武線沿線で私立幼稚園協会加盟園のほうで、特別支援に関する入園・転園の相談が1学期中にありました。多くが、公立に行きたいと思って相談をしているけれどもなかなか上手くいかない、もしくは、公立が近くにないのに入れてもらえないだろうかとい

う内容でした。私共のほうでは人件費も予算も限られておりますので、昨年と今年で公立幼稚園の子ども数は減っているが教員数は変わっていないのであれば、そうした枠を特別支援のお子さんにぜひ開放して手厚い教育をしていただければ、小学校に行った時に非常に連携がスムーズではないかと考えています。この点はすぐ始めないと、来年再来年の課題にしてしまうと、子どもたちは一日一日成長して学年が上がってしまいます。私からすると、子どもの可能性をせばめているのと同じ状態になりますので、ぜひ、早急なご対応をお願いしたいと思えます。

○高尾会長

公立幼稚園における特別支援のあり方ですね。他に、公立幼稚園のあり方について、ご意見があればお願いしたいと思えますが、よろしいでしょうか。

○緑谷委員

最初に信篤幼稚園の話がありました。この話は、協会のほうでも少し話をしたのですが、恐らく原因は、原木中山周辺に今年4月から小規模施設や保育所が多く開園をして、単純に施設が多くなったからというのが一番の理由ではないかと考えております。公立幼稚園、私立幼稚園、公立保育所、私立保育所で、質に差があるということはないと思えます。スタッフの経験の差はあるので施設の実力の差はもちろんあるのだと思えますが、聞いていると、公立の人数が減ったところの一番の原因は質ではないか、というような発言がありました。そういうことは全くないと思えます。逆に言うと、公立のほうで長く勤められる先生方、ベテランの先生が多く配置されているので、質という意味では私立よりよっぽどあるのではないかと考えています。ですので、預かり保育の問題が先程ありましたが、公立の場合は大洲の保護者の方もおっしゃられたように、納得して入ってらっしゃるわけですから、それもそんなに大きな問題ではないかかと思えます。嫌な人は最初から入園しないでしょうから。なので、単純に、原木中山周辺では施設の超過傾向になったというだけのことではないかと思えます。あとは、金額的なメリットがなくなって、1万円程度安いから入ろうという層が、値段が変わらないなら他のところを考えようとなったのだと思えます。残念ながら保護者になかなか質というのが伝わりづらいというのは、私共も非常に頭を悩ませているところですので、それはどの施設であっても変わらない課題だと思えます。先程から聞いていると、質がうんぬんということは、今公立幼稚園で働いている先生方に対してそうおっしゃられたわけではないと思えますが、私は申し訳ないなどの思いで聞いていました。

【議題3 市川版アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム】のリーフレット作成について】

○高尾会長

公立幼稚園のあり方については、今後も引き続き議論していくことになろうかと思えますので、今日はこの辺で終わりにしておこうと思えます。

よろしいでしょうか。それでは、次の議題に移りたいと思えます。「3 市川版アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムのリーフレット作成について」、幼・保・小の連携、これが非常に重要な課題になってくると思えますので、事務局から説明をお願いします。

○指導課長

私のほうからは、市川版アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムのリーフレットの作成についてご説明させていただきます。資料6をご覧ください。教育委員会では現在、各保育園・幼稚園における幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続、並びに、更なる連携推進を目的としたカリキュラム編成、いわゆる、リーフレットの作成を進めているところでございます。このカリキュラム編成につきましては、学識経験者、公立・私立の幼稚園・保育園、小学校から、代表6名で構成するカリキュラム検討委員会を設置するとともに、作業部会を設けて、7月から9月にかけてリーフレット案の作成に取り組んでいるところでございます。資料7をご覧ください。お手元のリーフレットは浦安市が平成28年に作成したものでございます。このリーフレットをイメージいただければと思います。同様のリーフレットを作成していきたいと思っております。リーフレット案を作成しました後、10月からはモデル地区、行徳地区の行徳保育園、新浜幼稚園において、また、年度明けの平成30年4月から5月にかけては、新浜小学校においてリーフレット案の実践的な取り組みを進めていただく中で、検証・改善を行っていきたいと考えております。完成後のリーフレットは、平成30年9月以降に市内全保育園・幼稚園・小学校に配布したいと考えております。以上でございます。

○高尾会長

事務局から説明がありましたけれども、ご意見、ご質問があればお願いしたいと思っております。緑谷委員、いかがでしょうか。

○緑谷委員

私は検討委員会に呼んでいただいて説明を受けました。夏休みのお忙しい中で作業部会の先生方が短い時間で取り組みをされるということで、幼稚園協会としても何かお役に立てることがあればお手伝いをして、幼・保・小の連携がよりスムーズになることを願っております。

○高尾会長

末廣委員、いかがですか。

○末廣委員

これは、小学校にとってはすごく良いことだと感じます。ただ、浦安市のリーフレットを見ていて、市川市でも現在公立幼稚園でこういうことをやっているところもあるのではないかと思います。小学生が幼稚園に行って園児のお世話をしたり、幼小合同の引渡し訓練の開催や、小学校に訪問して小学生と一緒に学校探検をしながら校舎に慣れていく等、各園で様々に行っていると思います。しかし、今後リーフレットのような形として出来上がれば、全体として広がっていき、幼保別なく同じレベルで小学校1年生に上がっていける。素晴らしいと思います。

○高尾会長

柘田委員、幼稚園の立場からいかがですか。

○榊田委員

アプローチカリキュラムは、幼・保・小ということで、公立・私立の垣根を越えて、市川市の子どもたちがスムーズに小学校に滑らかに接続をするということで計画を立てています。末廣先生がおっしゃったように、子どもたちにとってということを見ると、とても良いことだと感じております。

○高尾会長

保育園の立場から、土木田委員、いかがですか。

○土木田委員

保育園は人数が少ないところもありますので、同じ保育園から行く児童が少ないということがあります。子どもたちはすぐ慣れてしまいますが、親にとってはそれを不安に思う方もいらっしゃると思います。いろいろな家庭環境の中で育って小学校という大きな集団の中に入って、スムーズに幼・保・小の連携ができることが一番望ましいわけです。今現在の申し送り程度の書面と、各家庭の諸事情に応じて、担当の先生と電話なりを大事にさせていただいて詳細部分もお話しすることにより、少しでも小学校で子どもが戸惑うことなく生活が送れるようにと望んでいます。幼稚園・保育園関係なく、いろいろなお子さんの状況、家庭の状況があるので、そういったところを含めて、みんながスムーズに進学することができるようなものができたら望ましいと思っています。実際にはどういう部分が重要かということは見当がつかないのですが、より良いものを作っていく必要性があると思います。

○高尾会長

高野委員、いかがですか。

○高野委員

保育園における幼児教育の積極的な位置づけということで、現行の保育所保育指針においても、保育は養護と教育を一体的に行うこととされています。このスタンスは今回の改訂でも変わりませんが、今回、市川市の公立も私立も、幼稚園も保育園も小学校もつながっていく取り組みで、意義があるなと思っています。今までの市川市の取り組みの中で保育園の立場からすると、垣根が高かったという感じはあります。公立保育園と公立幼稚園で子どもたちが交流していた時期もありました。また、現在も幼稚園の研修に参加させていただき学ばせていただいて、保育園のほうに持ち帰り実践に活かしています。これまで、幼稚園と保育園、さらに小学校のほうとも職員の交流という形では積極的ではなかったと私は感じています。就学へのスムーズな接続につなげられるよう、保育士側が、より、就学前の子どもたちをどう教育していくのかということについては学び、これからアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの作成、モデル園、そして、全園でやっていくというこの取り組みは、子どもにとっても良いことですし、保育園、保育士側、幼稚園や小学校の先生方にとっても、とても意義のあるものではないかなと感じ、期待しています。保育園も幼稚園と同じように教育を行っていますが、なかなかその発信の仕方、保育園の保護者の方への理解、共に育てていくという部分では難しい課題もあったなと感じているところです。今後は、保護者にとっても、地域にとってもどんど

ん進んでいくのではないかと思います。

○高尾会長

竹内委員、保護者の立場からいかがですか。

○竹内委員

私は、新田保育園で6年間、上の子を受け入れていただきました。とても良い先生たちに出会えまして、園に育てられたなというのが実感です。6年間保育園に預けていますと、家で関わりが少ない分、保育園できっちり生活指導もしていただいたりするので、本当に成長を感じることができました。アプローチカリキュラムを見て、こういうことを市川市でもやっていくんだなと思い、今後に大きな期待をしています。自分もこういうことに参加できることを嬉しく思っています。

○高尾会長

内山委員、保護者の立場からいかがですか。

○内山委員

先日、大洲中学校の3年生の男の子と女の子が大洲幼稚園に遊びに来てくれまして、年長さんと楽しく時間を過ごしていただきっていました。帰って来て子どものほうにきくと、何々お兄さん、何々お姉さんと言って、来てくださった方たちの名前を覚えていて、何をやったんだよということをすごく嬉しそうに話してくれています。昨年度は保育園との交流もありましたし、小学校との交流もありまして、その都度、子どもから、すごく楽しい時間だったということを聞いています。ただ、少し回数が少ないので、もう少し回数があると、もっと子どもたちも喜ぶかなと思います。

○高尾会長

松尾委員、いかがですか。

○松尾委員

下の子もこの4月に小学校に上がったばかりで、小学校でいろいろなことを初めて知って、嬉しい反面、緊張感も4月はいっぱいありましたので、年長の時に小学校に遊びに行ったり関わりがあったりして小学校のことを多く知れる機会が増えるということは、進学にあたってスムーズに気持ちの準備ができて良いなと思います。

○高尾会長

吉田先生、医師の立場からいかがですか。

○吉田委員

小学校と幼児教育に関わりがあるということは良いことだと思いますが、公立に関しては幼稚園と小学校は市のほうの部署が教育委員会で一緒でしょうから、関わりが比較的スムーズに

できると思いますし、保育園のほうも公立であれば連携はしやすいと思います。しかし、私立の幼稚園あるいは保育園はその辺がどうなのかということと、保育園というのは簡易保育園というのがあると思いますが、小規模の保育園、そういったところもこの関わりの中に入ってくるのか、そういったことはいかがなのかと思いました。

○高尾会長

駒先生はいかがですか。

○駒副会長

他の自治体でこうしたアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムをやっているのはよく拝見して見まして、研究会や研究授業も見に行くのですが、それ自体が確かに子ども同士が関わりがありその中での成長というのもあって、子どもの発達にはとてもすばらしいなあと思っています。先程、内山委員もおっしゃられたように、回数というのが、その場限りというか、1回2回くらいで終わってしまうということが多く見られていて、子ども同士が関わるということはもちろん大切なのですが、それ以前に、小学校の教員が幼児教育を理解すること、幼児教育をやっている教員が小学校教育を理解するということが大切です。幼児教育は遊びを通した学びというものを前提にしておりますから、評価の仕方も違うわけですね。それを、小学校低学年をご担当くださる先生方になかなか理解されないかなというところはあると思うので、子ども同士の交流以前に、教員同士がもっと連携をして、幼児教育、小学校教育、お互いの理解を深めることがまずは先かなと感じています。

○高尾会長

先程の吉田委員のお話で、私立の幼稚園あるいは保育園の関わりはいかがですか。

○緑谷委員

私の園の話になりますが、中山にあるのですが、船橋との市境にありまして、自転車で5分ほど行くと船橋市になります。180人くらいおりまして、市川と船橋と半々くらいです。幼小連携の現況でいきますと、うちは大きく5つの小学校に分かれています。市川が3、船橋が2で分かれます。船橋市からは1月くらいになると封筒が来て、何月何日に幼少の引継ぎをしたいと。それで日にちの約束をすると、だいたい小学校の教頭先生と養護の先生がペアでいらっしゃることが多いですが、進学児の名簿の確認をします。市川市の小学校はどうかというと、年度によって学校のほうから来る来ないというのがばらばらなんですね。それについてはどういう仕組みになっているのかと伺いましたら、校長先生の判断で行かせたり行かせなかったりするという回答でした。それと、小学校に伺う機会を幼稚園生も非常に楽しみにしてございまして、1月末くらいになると招待状に何月何日に来てくださいというようなことがあります。特に進学予定児でなくても、みんな呼んでくれるので行っていました。10年くらい前ですと、候補の日にちが5つくらいあって、その中ですり合わせをして、何月何日の何時に行きましようということをしていたのが、ここ数年は連絡がくるのが10日前くらいが多いので、もう何か予定が入っていたりして残念ながら行けないと。ということで、うちの園はここ3年くらい行けていないのが残念です。ただ、小学校でもやることはたくさんありますし、好意で呼びいた

だいていることなので、これは上手くすり合わせができれば良いと感じております。

○高尾会長

私立保育園のほうはどうですか。

○土木田委員

以前は小学校の町探検ということを受け入れ、また、保育園側からは少人数で最寄の小学校の若宮小学校に、学校ってどんどころなんだろうということで、学校見学をこちらから要請して受け入れていただいたことはありますが、ここ数年、そういったことも行っていない状況です。町探検に関しては、もしかすると学校長さんの裁量判断なのかなと思います。あえて学校に町探検はやらないんですかと聞いてはいませんけれども、そのような状況ですね。施設として積極的に交流をとる現状にはないので、こういったものがあれば、自然に連携や交流が図れるのではないかと思います。

○高尾会長

現在カリキュラムが検討されていて、まだ修正がきくようですので、今日の意見を参考にいただければと思います。

松丸委員から、こうしてほしいとか、意見がありましたらお聞かせください。

○松丸委員

大丈夫です。

○高尾会長

どうぞ、先生。

○末廣委員

今いろいろな立場からのお話を伺っていて、駒委員がおっしゃっていた、教職員の意識の問題はとても大きいものだと思います。私は小学校ですが、小学校からすると、幼稚園でも保育園でも1年生に入ってくる子どものスタートはものすごく重要だと思います。すごく重要だと認識していれば、早くからいろいろな情報や状況を知りたいと思うのは当然だと思いますが、今いろいろ聞くと、情報交換会が、去年はあったのに今年はないとか、回数が少なかったりとか様々のようです。各学校・園でいろいろな条件はありますから一概には言えませんが、私は、入学児童がいそうな幼稚園・保育園はピックアップをして、大変だけれども、案内を送って来てもらうということをやっています。総園数で30くらいになるんですね、少数で1～2人のところもありますから。でも、やっぱり、入学してくるのであれば、早目に小学校を知ってもらって1年生とも交流して安心して入学してもらえれば、それだけでもスタートが全然違うと感じています。学校長や担当者によって対応が年度によって様々であるのは良くないと思います。こういうカリキュラムができ、このようにやっていくんだという意識が出てくると、より安定的に情報交換等ができるのではないかと思います。幼稚園にしても保育園にしても、また、受け入れる小学校にしても、やはり、子どもたちは良い形で行ってほしい、また来てほしいと思

うのは当たり前だと思います。ですから、こういうカリキュラムがあることによってより確実になり、また、特に、受け入れる側の教職員の意識が変わっていけばいいんじゃないかと思います。

○高尾会長

カリキュラムができてリーフレットにして報告していけば、先生方の意識も少しずつ変わっていくのではないかということですね。いずれにせよ、カリキュラムができてそれを実行していくということが重要なので、そこまでつなげていけたらと思います。

他にご意見はありますか。よろしいでしょうか。

それでは、次に、その他は何かありますか。

○教育政策課長

事務局から、今後の予定についてお知らせいたします。今年度の審議会は2回を予定しており、次回は10月頃に開催したいと考えております。なお、今日のお話し等でご連絡をいただく場合は、教育政策課までご一報いただければと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

○高尾会長

それでは、これをもちまして、平成29年度第1回市川市幼児教育振興審議会を終了いたします。ありがとうございました。